1. 原始・古代編

古代吉備の国

古代吉備の国とは、大まかに現在の岡山県全域と広島県東部の備後地方を併せた地域を指す。吉備は大和や出雲などと並ぶ勢力を持ち、製鉄や製塩の先進地域でもあった。その中心地と考えられる岡山平野の南部は当時、内海〔吉備の（　①　）〕であり、周辺に多数の前方後円墳が築かれた他、多くの古墳や遺跡が点在する。

やがて吉備の国は、備前、備中、備後の三国に分割されるなど勢力をそがれ、中央政権への影響力を失ってしまう。さらに713年には（　②　）国から美作国を分立した。

８世紀には吉備地方から２人の重要な政治家が出ている。一人は遣唐使として中国に学んだ吉備真備（参照17頁）、もう一人は僧・道鏡の皇位簒奪（奪い取ること）を阻んだ和気清麻呂（参照17頁）である。地方の豪族が中央政界で重用されることが珍しい時代に、２人は歴史に残る活躍を見せた。　［①穴海②備前］

穴埋め式で考えながら読む

縄文時代から近世にかけての遺跡群
百間川遺跡群　■岡山市中区原尾島・沢田・兼基・今谷・米田

百間川周辺で発見された縄文時代から近世にかけての遺跡群。（　③　）時代を中心とした遺跡群として知られ、遺跡は４つの微高地（旭川の土砂の堆積作用による自然堤防状の高まり）と、その周辺低地の水田部分からなる。1977（昭和52）年以来、弥生時代後期（２～３世紀ごろ）に洪水によって突然埋もれた当時の村々や水田の調査が行われている。　［③弥生］

解答はここ

弥生中期の集落遺跡
沼遺跡　■津山市沼（県指定史跡）

弥生時代中期、紀元前１世紀～紀元後１世紀ごろの集落遺跡。1952～58（昭和27～33）年の全面発掘調査で５つの（　④　）住居と１つの作業所、２～３の高床倉庫からなる集落の存在が明らかとなり、この集落全体が生活、生産の単位をなす集団であることが判明した。現在は遺跡公園として復元家屋も整備され、遺跡のすぐ脇には津山弥生の里文化財センターがある。　［④竪穴（たてあな）］

■岡山の三大古墳

岡山県内で確認されている約（　①　）基の前方後円墳のうち、造山古墳、作山古墳、両宮山古墳の３基はスケールの点で傑出し、三大古墳と呼ばれる。いずれも古墳時代中期の５世紀代に属し、吉備地方に君臨した強力な首長の存在を想像させる。［①170］

県下最大の前方後円墳
造山古墳（国指定史跡）　■岡山市北区新庄下

墳長が350メートルあり、岡山で最大、全国でも（　②　）番目に大きい前方後円墳。５世紀前半のもので、畿内地方と比肩する吉備の勢力を示したものとも、倭の大王墓ともされる。未発掘のため、墳丘端部や埋葬施設などの詳細は不明。前方部の頂上にある神社脇には、熊本県阿蘇山の凝灰岩製の巨大な刳抜式長持形石棺（長さ2.36メートル、幅1.09メートル、深さ75センチ）が置かれている。これは造山古墳か、あるいは近くの新庄車塚古墳から出土したものといわれている。周辺には陪塚とみられる６基の古墳がある。近くに、古墳時代や古墳についての解説パネルを展示している岡山市造山古墳ビジターセンターが2020年にオープンした。［②４］

吉備最古の横穴式石室
千足古墳（国指定史跡）　■岡山市北区新庄下

造山古墳の周辺にある６基の古墳の一つで、第５号墳。墳長約81メートル、５世紀前半ごろの帆立貝形前方後円墳で、吉備最古の（　③　）石室を有する。石室内にはついたてのように場所を区画するための「石障」と呼ばれる直弧文（幾何学的模様）を描いた石がある。［③横穴式］

岡山で２番目の前方後円墳
作山古墳（国指定史跡）　■総社市三須

岡山で２番目に大きい墳長約282メートルの前方後円墳。全国（　④　）位の大きさ。古墳時代中期、５世紀中ごろの築造とされ、造山古墳の次に造られた大古墳とみられる。造山古墳の西約２キロに位置する。後円部外方には幅約20メートルの墳丘外の平坦部がある。未発掘のため埋葬施設などの詳細は不明。［④10］

Close UP 謎を秘めた鬼ノ城

吉備の穴海をにらむ幻の山城

復元された西門

鬼ノ城は吉備高原最南端の山塊である鬼城山に築かれた山城だ。山頂部を鉢巻き状に取り囲むように、8合目から9合目にかけて石垣や土盛りで築かれた城壁が2.8キロにわたってめぐらされている。山は急傾斜面だが城壁内は平坦で、城内面積は約30ヘクタールと広く、西日本で発見された古代山城のなかでも屈指の規模。古代の吉備中心部とされる岡山市西部から総社市東部を一望する山上にあり、またその眺望は古代瀬戸内海交通上重要な位置を占めていたと考えられる。立地や城壁の構造からみて、強大な軍事施設としての様相が強いが、その性格については不明な部分も多い。

築城をめぐる謎

663（天智天皇6）年、倭国と百済の連合軍は白村江の戦いで唐と新羅の連合軍に敗れる。史書によれば唐と新羅の侵攻に備えるため、（　④　）からの亡命貴族の指導によって各地に山城が築かれたとあり、それらは一般に朝鮮式山城と呼ばれる。ところがその中には鬼ノ城に関する記述がない。史書に記述のないこうした山城は、一般に（　⑤　）系山城と呼ばれている。そのほか温羅が大和勢力への防御として築いたという説、逆に大和勢力が吉備地方平定の目的で築いたという説などがあり、真相はいまだに謎に包まれたままだ。

［④百済⑤神籠石（こうごいし）］

発掘調査の成果

外郭線（城の外部を囲むかこい）は、必ず直線的な作りを基本単位として、その接点に「折れ」をもつという特徴がある。平野を見下ろす正面側には、土塁、石塁、水門、城門があるが、背面側は土塁のみで、城門が1カ所確認されているにすぎない。この外郭線上には、城門跡が4カ所、谷部には水門跡が5カ所、角楼跡が1カ所確認されている。また城壁内部は、礎石をもつ建物跡5棟以上、貯水施設としての池や湿地が8カ所で確認されており、これらは籠城をも意識した構造とされる。麓には千引カナクロ谷遺跡（参照9頁）など、鬼ノ城と時期を前後する製鉄遺跡群もあり、関連が指摘される。

奈良時代以前の寺院跡

古代寺院跡

古代寺院跡とは一般に奈良時代以前の平地伽藍の寺院跡を指す。未発掘調査地も多く、寺院跡かどうかも含めてその数や建立時期には諸説あるが、『岡山県史』によれば７世紀前半の飛鳥期、７世紀後半の白鳳期、そして８世紀代の奈良時代に建立された寺院跡、あるいは瓦の出土する遺跡は県内で54カ所ある。

秦廃寺

飛鳥期の寺院跡としては、秦廃寺（総社市、県指定史跡）、賞田廃寺跡（岡山市、国指定史跡）がよく知られる。（　①　）廃寺は県内でも最も古い寺院の一つとされる。（　②　）廃寺は備前最古の寺院で、発掘調査の結果、東西に塔を配した寺院であったことが判明している。

［①秦②賞田］

実際の検定に近い形式の節末問題

問題

問１　日本最大の前方後円墳・大仙古墳の５分の２の相似形と指摘される、赤磐市にある県内で３番目に大きい古墳はどれか。

１　金蔵山古墳　２　作山古墳　３　両宮山古墳

問２　石室構造がずばぬけて大きく三大巨石古墳といわれる三つの古墳に入らないのはどれか。

１　こうもり塚古墳　２　王墓山古墳　３　牟佐大塚古墳

問３　７世紀頃に築かれた巨大な城の１つは鬼ノ城、もう１つはどれか。

１　金川城　２　砥石城　３　大廻小廻山城

問４　「温羅伝説」の中で、鯉に化けて川の中に逃げた温羅を吉備津彦命は何になって追いかけたか。

１　大蛇　２　鵜　３　雉

問５　桓武天皇に平安遷都を進言し造営にも関わった、主に戦前に使用された10円紙幣に描かれていた人物は誰か。

１　和気清麻呂　２　吉備真備　３　児島高徳

解答はここ

【問１】３　【問２】２　【問３】３　【問４】２　【問５】１